

令和2年度 新潟県立阿賀黎明高等学校 第1回 学校運営協議会 議事録

1 日時
令和2年6月26日(金) 10時00分～12時00分

2 会場
新潟県立阿賀黎明高等学校 多目的ホール

3 参加者
委員7人(欠席者なし)
(オブザーバー参加)

- ・阿賀黎明高校魅力化プロジェクト関係者3人
- ・阿賀黎明探究パートナーズ関係者5人
- ・阿賀黎明高等学校教職員8人

計23人



(参加者氏名等一覧)

(1) 学校運営協議会委員

氏名	所属・役職など	所属部会など
清野 一男	前阿賀町教育委員会教育長	会長、評価部会
遠藤 佐	阿賀町教育委員会教育長	副会長、評価部会
稲生 一徳	阿賀町立阿賀津川中学校長	評価部会
齋藤 俊太郎	麒麟山酒造株式会社 代表取締役社長	地域協働部会
猪俣 一成	株式会社巴山組 専務取締役	地域協働部会
石川 英理香	新潟県立阿賀黎明高等学校PTA会長	評価部会
平山 剛	新潟県立阿賀黎明高等学校長	地域協働部会

(2) 阿賀黎明高校魅力化プロジェクト

氏名	所属・役職など
清野 郁男	阿賀町教育委員会 学校教育課長
石川 憲明	阿賀町教育委員会 学校教育課 課長補佐
西田 卓司	阿賀町教育委員会 学校教育課 黎明学舎 塾長

(3) 阿賀黎明探究パートナーズ

役職	氏名	所属・役職など
副会長	清田 周	阿賀町社会教育委員
理事	宮澤 直子	阿賀町議会議員
理事	渡部 一知	阿賀町立阿賀津川中学校PTA会長
監事	清野 義昭	室谷区長
会員	小見 まいこ	NPO法人みらいずworks代表

(4) 阿賀黎明高等学校教職員

職名	氏名	備考
教頭	尾上 博司	学校運営協議会事務局長
教諭	大滝 雅代	コミュニティ・スクール推進委員長、国語科
教諭	荒井 一樹	教務主任、商業科
教諭	佐藤 真	進路指導主事、数学科
教諭	松本 由美子	生徒指導主事、保健体育科
教諭	吉田 紀夫	進路指導部、外国語(英語)科
教諭	高橋 裕	NEINシステム運用主任、数学科
教諭	佐藤 修子	学校設定教科「地域学」担当、地歴公民科

4 次第及び発言の概要

(1) 開会 (10:00~10:05)

阿賀黎明高等学校長の挨拶

- 本校は阿賀町にある唯一の県立高校として、その意義を認識し、地域と連携しながらその魅力化を図る。
- コミュニティ・スクールとは保護者や地域住民が直接学校運営に参画することが可能な制度である。
- 本校において、令和4年度に、地域探究コース(仮称)が設置されることが、6月県議会の総務文教委員会で公表された。正式には10月に決定の見込みである。
- 今後、本校の教育課程委員会を中心に、令和4年度入学生の教育課程の編成作業を行う。
- 本日は会長、副会長の選出と、これからの本校の進む方向について意見を頂戴できるものと思っている。

(2) コミュニティ・スクールについて説明 (10:05~10:10)

ア 諸注意

- ① 議事、承認については、学校運営協議会委員のみで行う。
- ② 熟議内容については、非公開とする。

イ 目的

「地域とともにある学校づくり」への転換を図る。

- ① 目標やビジョンを共有
- ② 学校と地域の連携・協働
- ③ 社会総掛かりでの教育の実現

ウ 学校運営協議会を導入した学校＝コミュニティ・スクール

新潟県教育委員会が学校運営協議会委員を任命する。

- ① 校長が示す、学校運営の基本方針を承認
- ② 学校運営・教育活動に意見
- ③ 地域住民・保護者へ協議の結果に関する情報提供

エ 学校運営協議会内における2つの部会

- ① 評価部会
評価の方法を検討する。(評価は全委員で行う。)
- ② 地域協働部会
学校と協働して、生徒を対象とした取組を行う。

(3) 学校の現状と取組 (10:10~10:20)

- ア 学校規模 (令和3年度入学生)、コース及び年度別入学者数
- イ 進路状況とその取組
- ウ 地域との連携

- ① 教科「地域学」
教養コース2年生及び3年生を対象に、それぞれ2単位ずつ
- ② 総合的な探究(学習)の時間
1年生全員及び2年生の国際・環境コースを対象に、講演から探究活動まで

(4) 会長及び副会長の選出及び会長挨拶 (10:20~10:30)

- ア 全会一致で会長及び副会長が選出される。
- イ 会長の挨拶
 - コミュニティ・スクールは、新潟県の高等学校では阿賀黎明高等学校が初めて指定される。高校がどう変わるか、最初の試みとなる。成果の上がる取組を期待する。

(5) 承認 (10:30~10:45)

- ア 委員が所属する部会(評価部会、地域協働部会)について
原案どおり承認される。
- イ 学校経営の基本方針について
阿賀黎明高等学校長による次の①~③の説明

- ① 勤務時間を意識した働き方を心がけ、限られた時間内で成果の上がる教育活動を行う。
- ② コミュニティ・スクールとして、地域との連携を深め、魅力ある学校づくりを行う。
- ③ 生徒の成長と進路希望実現のために、一人一人に対し、心のこもった進路指導を行う。
(質疑応答)

(委員：阿賀町立阿賀津川中学校長)

- 小中学校も令和3年度に、コミュニティ・スクールを導入する。小中学校も地域についての学習を「阿賀学」と称して進めていく。高校2、3年は学校設定教科「地域学」を行っているが、具体的な内容を紹介してもらいたい。

(委員：阿賀黎明高等学校長)

- 地域学では町教委、阿賀町農林課などの協力をしてもらっている。講師等の派遣や、「ふるさとCM大賞」への参加などである。
- 「ふるさとCM大賞」については阿賀町教育委員会の黎明学舎スタッフの支援でPR動画を作成している。

(委員：阿賀町立阿賀津川中学校長)

- 阿賀町には（保育園から高等学校までの）「阿賀町の15年教育」の方針がある。中高連携、小中連携の視点で「阿賀学」を体系化していきたい。中高連携という視点でご指導いただきたい。

(委員：阿賀黎明高等学校長)

- 「阿賀町の15年教育」の方針に基づいて、本校における総合的な探究の時間で行っている「阿賀学」及び学校設定教科「地域学」で学ぶ内容を整理する必要がある。連携を念頭に置いて進めたい。

(会長)

- 今まで総合学習の時間では自分の学校だけで取り組んで成果を上げていたが、小学校、中学校、高等学校で紐のようにつながっていくことで、子どもたちを育てていけるのではないか。

ウ 求める生徒像について

阿賀黎明高等学校長による次の①～③の説明

- ① 地域を知ることを通じて、学ぶ姿勢を身につけ、自ら進路を切り開く生徒
- ② 教養を高め、人間性を磨くことを心がけ、人のために尽くす志をもつ生徒
- ③ 学ぶことに意義を感じ、未知のものに勇気をもって向き合おうとする生徒

(6) 熟議 (10:45～11:50)

(5)で承認された内容を踏まえて、地域とともに育てたい生徒について、オブザーバーを交えての熟議。

(7) 提示 (11:50～11:53)

次回の議題の1つである「令和4年度入学生の教育課程(案)」が提示される。



(8) 次回開催日時 (11:53～11:55)

後日、調整される。

(9) 閉会 (11:55～12:00)

副会長の挨拶

(内容)

- 阿賀町の小中も、来年度からコミュニティ・スクールを進めていく。
- コミュニティ・スクールとは何かを自分の頭の中で考えていたが、実際こういうものかということが見えてきた。地域との連携が大事だと考えている。
- 地域との連携は小中高と一貫した中で行わなければならない。学校設置者が異なっても、子どもたちは阿賀町の中で育っていくので、一貫したものがないとだめだと考える。
- そのための15年教育である。そのためにコミュニティ・スクールを進めている。
- 阿賀町の子どもたちにとって実のあるものにしたい。